

変化を楽しもう。

建設DXが創る、新しい働き方と未来

私たちはDXを進めるために
DXをするわけではありません。

より安全に。
より生産的に。
より働きやすく。

そして、
家族と過ごす大切な時間を
生み出すために。

テクノロジーの力で、
建設業の未来を
自分たちの手で創る。

その変化を、
私たちは楽しみながら
進んでいく。

小柳建設株式会社
OYANAGI CONSTRUCTION Inc.



DXで働き方を変える。DXで未来を創る。DXで家族との時間を増やす。



安全・安心な
現場づくり



生産性の向上と
品質の確保



働きやすい
環境づくり



家族との時間も
大切にする働き方

1. 小柳建設のDX方針

デジタルは目的ではなく、経営理念を実現するための手段

経営理念

事業を通じて人類・社会の進化・発展に貢献すると同時に、
全従業員とその家族の物心両面の幸福を追求し、
誇りをもって会社を後世に伝えるものとする



建設現場・設計・施工管理・バックオフィスに蓄積されるデータを
デジタル技術により統合・可視化し、属人化した業務を標準化・
高度化することで、現場力と経営判断力を同時に高める。

= デジタルのチカラを活用して、経営理念の実現に近づく



2. DX推進の背景

建設業の構造課題を、変革の機会に変える

直面していたリスク

- ・人手不足、技術承継、働き方改革への対応
- ・紙・口頭・経験依存による属人化
- ・現場とオフィスの情報分断
- ・オンプレミス中心だった時代の災害時データ保全リスク
- ・移動を前提とした確認・合意形成の非効率

Risk

改善機会

- ・クラウド化による「いつでも、どこでも」働ける環境
- ・現場データと経営データの統合
- ・MR/3Dモデルを活用した空間共有と合意形成
- ・AI・モバイルアプリによる安全・品質・生産性向上
- ・地域の人材育成、働き方改革、地方創生への貢献

Opportunity

3. DX戦略の4本柱

方針を実行へ落とし込む、全社共通の戦略フレーム



安全・品質・生産性を高次元で両立

1. 現場のDXの推進

施工管理・安全管理・品質管理でデジタルを活用し、再現性のある現場運営へ

2. 業務プロセス再設計 (BPR)

見積・原価・工程・請求をデータで一気通貫し、ムダと手戻りを削減

3. データ活用型経営

工事実績・原価・労務・協力会社データなどを経営指標として活用

4. 人材・文化のDX

経営哲学をはじめ、ITリテラシー教育、マイクロラーニングを通じて、改善文化を定着させ、現場主導でDXを生み出す組織風土へ

4. 取組み状況①:IT基盤とデータ活用

クラウドを前提に、現場と経営をつなぐ情報基盤へ

社内システムのクラウド化

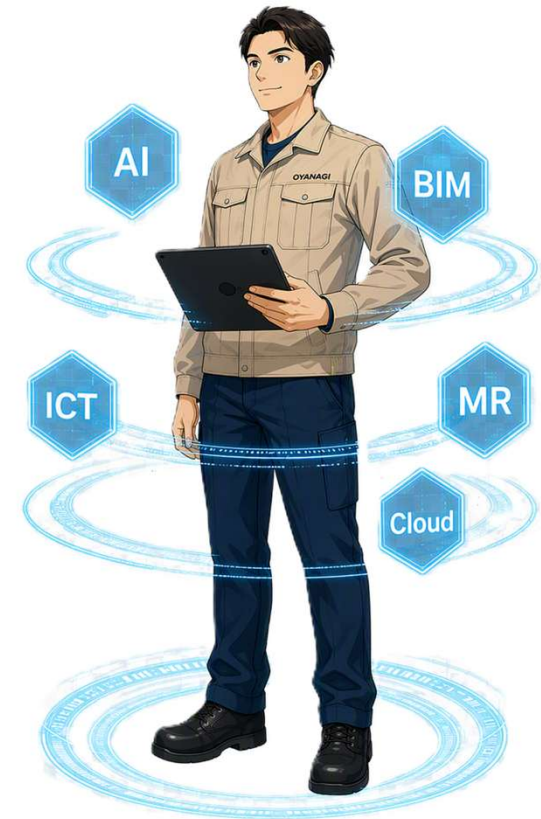
2016年に社内システムをクラウド化し、Microsoft 365を導入。
社内コミュニケーションをメール中心からビジネスチャットへ移行。

情報共有・業務標準化

Microsoft 365等を活用し、いつでも・どこでも情報にアクセスできる環境を整備。データ保全とコミュニケーションの迅速化を推進。

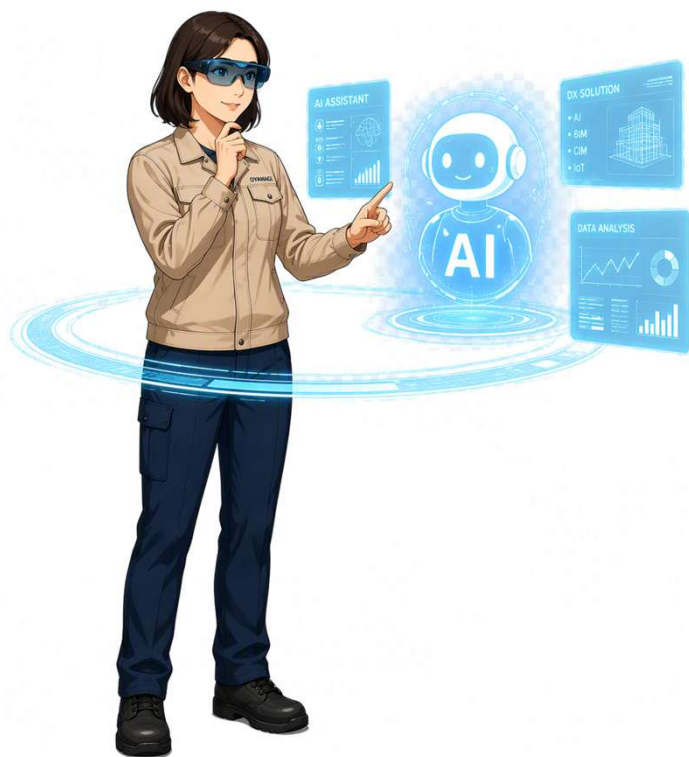
データ統合の方向性

工事管理・原価管理・労務管理等を連動し、現場データと経営データに基づく迅速な意思決定を目指す。



5. 取組み状況②:現場DXと自社開発プロダクト

“現場を会議室に持ってくる”DX基盤



Holostruction

MR/3Dモデルを活用し、設計・施工検討、関係者との合意形成、遠隔地との打合せ、教育・技術継承を支援。

All-sighte

スマホで撮影した現場画像・動画にGPS情報やコメントを付与して共有。報告・連絡・指示の迅速化、災害時の状況把握にも寄与。

生成AI・AIソリューション

現場データAI-OCR、安全危険検知、教育動画生成など、AIソリューション、AIエージェント活用を継続強化。

6. 推進体制と人材育成

経営直轄で、現場実装と改善文化を継続させる

DX統括

経営管理本部長（CIO）をDX統括責任者として任命。

DX戦略の企画立案から実行、進捗管理、経営会議への報告・是正提案までを担います。

横断推進

innovation推進部が全社DXを横断的に推進。

各部門・各現場のメンバーにて、DXを主導、推進し、現場実装と業務改善を加速します。

人材育成

全社員向けデジタル基礎教育、マイクロラーニング（ITリテラシー、AI活用、データ活用等）の実施。

外部ITベンダーや専門家と連携した実践的スキル習得を実施します。

経営会議

CIO

innovation推進部

部門・現場リーダー

7. ITシステム運用・管理と情報セキュリティ

情報資産の保護を、DX推進の前提条件として位置付ける

管理体制

情報セキュリティの維持・改善に必要な管理体制を整備し、社内規程等として定める。

教育・訓練

従業員は教育・訓練を通じて必要な知識・技能を習得し、情報セキュリティの確保に努める。

法令・契約遵守

情報セキュリティに関わる法令、規制、規範、契約上の義務を遵守する。

事故対応・改善

事故・違反を認識した場合は迅速に対応し、原因分析・再発防止・継続的改善に取り組む。

機密性・完全性・可用性を維持し、事業継続と社会的信頼の確保に努める

7. ITシステム運用・管理と情報セキュリティ

情報資産の保護を、DX推進の前提条件として位置付ける



管理体制

情報セキュリティの維持・改善に必要な管理体制を整備し、社内規程等として定める。

教育・訓練

従業員は教育・訓練を通じて必要な知識・技能を習得し、情報セキュリティの確保に努める。

法令・契約遵守

情報セキュリティに関わる法令、規制、規範、契約上の義務を遵守する。

事故対応・改善

事故・違反を認識した場合は迅速に対応し、原因分析・再発防止・継続的改善に取り組む。

機密性・完全性・可用性を維持し、事業継続と社会的信頼の確保に努める

8. 成果と進捗管理指標

DXの進捗を、経営成果・働き方・現場実装の両面から確認する

2030年までに

営業利益率

+3%

平均年収

+10%

一人当たりの残業時間

2時間/月継続

有休取得率

75% 以上維持

業務改善提案件数

50件/年

従業員満足度

95% 以上維持

これまでの外部評価・成果

- ・くるみん/プラチナくるみん/プラチナくるみんプラス
- ・えるぼし3つ星/プラチナえるぼし
- ・ユースエール
- ・健康経営優良法人ブライト500認定
- ・ホワイト企業ランキング1位
- ・地域未来牽引企業
- ・総務省テレワークトップランナー2025 総務大臣賞
- ・Microsoft Japan Partner of The Year 2022、2023
- ・日本HRチャレンジ大賞地方活性化賞
- ・・・ etc



10. 推進計画

4つの実行テーマを一本のロードマップに束ね、2030年のゴールへ

